

横浜を撮る！捕る！獲る！

横浜プレビュー

石内都

小山穂太郎

佐藤時啓

鈴木理策

中平卓馬

榑橋朝子

宮本隆司

森日出夫

山崎博

佐久間里美

三本松淳

2011年10月14日(金)～11月6日(日) 11時30分～19時 会場:新・港村(新港ピア)全体
観覧料:新・港村パスポート300円 金曜21時まで 休館日10月27日(木)

■ 同時開催 / 若いチームによる写真展

〈拡張される網膜〉MP1主催、〈それがすぎ〉それがすぎ主催、〈ストリート・ストーリーズ〉いまゆら主催、
〈新・港村 村民フラッグプロジェクト〉T.Nakagawa+BankART1929主催、ほか

主催:BankART1929 共催:横浜市文化観光局 平成23年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

横浜を撮る！ 捕る！ 獲る！

横浜プレビュー

横浜は150年前、国が開港を決めたある意味でゲームのような街だ。戦後、横浜は志をもった都市へと脱皮を図る。国とどう係わるか、どのように自立するか？横浜は国との関係を保ちながら、シティズンプライドを築いていく。

ここ新港埠頭、すなわち「新・港村」の先端に立つハンマーヘッドはその象徴だ。

さて、戦後の高度成長を経、問題を解くことに邁進してきた横浜は、今現在、何を解けばいいのか？ 何が問題なのか？ といったジレンマの中、創造都市というとらえがたいテーマ(問いかけ)を標榜しはじめる。わかり難いものをわかり難いまま受け入れ、都市としての包容力、豊かさを高めるプロセスにはっていく。そんな横浜の状況に対して3.11は容赦なく、人間というよりも、動物としての人類に対して、極めて高いハードルを与える。

八戸レビュー(八戸の震災前の人々の生活の姿を描いた写真展)で開村した新・港村。エピソードは、故中原佑介が愛したブランクーシの「終わりなき始まり」にちなんで未知なる「横浜レビュー」で閉じたいと思う。



石内 都



小山穂太郎



佐藤時啓



鈴木理策



中平卓馬



橋橋朝子



宮本隆司 (撮影現場)



森 日出夫



山崎 博



三本松 淳



佐久間里美

石内 都 | Miyako Ishiuchi

1947年群馬県生まれ。多摩美術大学染織デザイン専攻中退。個展「ひろしま Strings of time」(広島現代美術館/2008)により第50回毎日芸術賞受賞。第3回国際写真センター・トリエンナーレ(NY)招待作家。主な個展に、身体のかくれ(群馬県立近代美術館/2009)、「ひろしま in OKINAWA」(佐喜真美術館/2010)、「Mother's」から「ひろしま」へ(第11回ドキュメンタリーフォトフェスティバル宮崎(宮崎県立美術館県民ギャラリー/2011))、「ひろしま in NAGANO」(ホク文化ホールギャラリー/2011)、「ひろしま by ISHIUCHI MIYAKO」(UBC Museum of Anthropology/Vancouver)等多数。主な著書に、写真集「ひろしま」(集英社)、写真集「SWEET HOME YOKOSUKA1976-1980」(PPP.NY.)がある。

小山穂太郎 | Hotaro Koyama

1955年東京武蔵野市生まれ。1987年に東京芸術大学美術研究科博士課程満期退学。1987年「現代美術になった写真」(栃木県立美術館)、1990年「移行するイメージ」(京都近代美術館)など、写真・映像(16mmフィルムやビデオプロジェクション等)を主に用いて創作活動を展開し、1994-95年には文化庁在外研修でフランスに滞在、建設途中で長年置き去りにされた高架橋をモチーフに創作を行う。2002年には、個展「Phantom」を栃木県立美術館で行う。現在は、日常の場で時間とイメージの想起を探索するという考えの基、イメージを生み出す媒体を主に用いて創作活動を進めている。

佐藤時啓 | Tokihiro Sato

1957年山形県生まれ。1983年東京芸術大学大学院美術研究科修了。長時間露光により風景や物事の間に光を彫り込んでいくような写真作品の制作や、カメラの構造による公共的な場や空間、装置を各地に展開している。「第6回ハバナ・ビエンナーレ」(1997)「第9回パングラデュ・ビエンナーレ」(1999)ほか多くの国際展に参加。Leslie Tonkonow 画廊(ニューヨーク)HAINS画廊(サンフランシスコ)などの画廊や、酒田市美術館(1999)シカゴ美術館(2005) Frist Center for the Visual Arts(2010)などの美術館にて個展。また最近では、ワンダリングカメラプロジェクト、サイトシーイング・バスカメラプロジェクトなど、他者との関係性をテーマにしたプロジェクトを展開。

鈴木理策 | Risaku Suzuki

1963年和歌山県生まれ。1990年初個展。2000年に写真集『PILES OF TIME』(光琳社出版・絶版)にて第25回木村伊兵衛写真賞受賞。時間や記憶、場所の気配など、視覚に取まらない感覚を主題とする作品を発表し続ける。主な個展に「Yuki・Sakura」(Christophe Guye Galerie/チューリッヒ、2011)、「SAKURA」(金峯山寺本地堂/2010)、「WHITE」(ギャラリー小柳/2009)、「熊野、雪、桜」(東京都写真美術館/2007)等。主な写真集に「熊野、雪、桜」(淡交社、2007)、「Yuki Sakura」(NazraeliPress/2008)、「Atelier of Cezanne :Six by Six (Set Two)」(NazraeliPress/2011)等。東京国立近代美術館、東京都写真美術館、The Museum of Fine Arts, Houston, USA, International Center of Photography, USAなどに作品が収蔵されている。東京芸術大学美術学部先端芸術表現科准教授。

中平卓馬 | Takuma Nakahira

写真家。1938年東京都生まれ。東京外国語大学スペイン語科卒業。1968年に多木浩二らと写真同人誌「プロウォーク」創刊。主な写真集に「来たるべき言葉のために」(風土社/1970)、「新たな凝視」(晶文社/1983)、「Documentary」(Akio Nagasawa Publishing/2011)、評論集に「なぜ、植物図鑑か」(晶文社、1973)、「決闘写真論」(篠山紀信との共著、朝日新聞社/1977)、「見続ける涯に火が…批評集成1965-1977」(オシリス/2007)等。主な個展に「中平卓馬展 原点復帰—横浜」(横浜美術館/2003)、「キリカエ」(Six/2011)。現在、横浜在住。

橋橋朝子 | Asako Narahashi

1959年東京都生まれ。早稲田大学第二文芸部美術専攻卒業。1980年代末に写真家として活動開始。最近の主な個展に「half awake and half asleep in the water」(ツァイトフォトサロン、東京/ヨッシ・ミロ・ギャラリー、N.Y./プリスカ・バスケール、ケルン他)、「近づいては遠ざかる」(東京アートミュージアム)、「Coming Closer and Getting Further Away」(ローズ・ギャラリー、サンタモニカ他)。写真集に「NU・E」(1997)、「フニクリフニクラ」(2003)、「half awake and half asleep in the water」(2007)他。

宮本隆司 | Ryuji Miyamoto

1947年東京生まれ。1973年多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。1989年第14回木村伊兵衛写真賞受賞。1991年ACC奨学金を得てニューヨーク滞在。1996年第6回ヴェネチア・ビエンナーレ建築賞金獅子賞、1999年第11回写真の会賞、2005年第55回芸術選奨文部科学大臣賞、第12回日本文化芸術振興賞受賞。建築空間を題材にした独自の作風は国際的にも評価が高く、各地で撮影、発表を続けている。

森 日出夫 | Hideo Mori

横浜市生まれ。JPS(日本写真家協会)所属。長年撮り続けた横浜の港・街・人を「森の観測」と名づけ、それらの作品を写真集や個展に多数発表している。独自の感性で森の「記憶」を記録する。写真集に「森の観測vol.2-WALL・記憶へ」(1993)、「FYOKOHAMA PASS ハマのメリーさん」(1995)、8×10による人物全身像写真集「わたし」(2010)。1996年 ニューヨークADC賞、2001年 第50回横浜文化賞奨励賞。

山崎 博 | Hiroshi Yamazaki

1946年長野県生まれ。1968年日本大学芸術学部中退。1969年より写真を始め、1973年に16ミリフィルム作品の制作を開始。1974年の初個展「OBSERVATION・観測概念」(ガレリア・グラフィカ)、以降精力的に展覧会を開催。海外展へ数多く参加し、写真、映像作品、ともに国内外から高い評価を得る。1983年第33回日本写真協会新人賞、1994年全国カレンダー展総理大臣賞、2001年第26回伊奈信男賞受賞。ほか著名画廊での個展開催、グループ展に多数参加。ニューヨーク近代美術館、東京都写真美術館、他多数美術館に収蔵。写真集に「HELIOGRAPHY」(青弓社/1983)、「水平線採集」(六耀社/1989)、「EARLY WORKS 1969-1974」(ディスクユニオン)がある。現在、武蔵野美術大学映像学教授。

佐久間里美 | Satomi Sakuma

1978年、東京都生まれ。2000年日本大学芸術学部美術学科中退。2005年、フォト・プレミオ入賞。2008年、個展「No Nature」(MUSEE F)では、自然と流線形をテーマにしたものを発表し、近年では、江戸時代の禅僧・千漣が描いた「○△□」からインスパイアされた作品を制作している。2010年、個展「○△□」(Port Gallery T/2011年)、個展「○△□」(MUSEE F/ 2011年)、グループ展「佐久間里美 / John Barr」(Port Gallery T)など。

三本松 淳 | Jun Sanbonmatsu

1978年福島県生まれ。2001年武蔵野美術大学映像学専攻卒業。2000年より写真作品、および写真を用いたインスタレーション作品を手掛ける。2009-10年武蔵野美術大学「バリ」賞にて渡仏、パリ国際芸術都市に滞在。2010年帰国し、現在東京を拠点に活動中。個展に「Untitled」(Cite internationale des arts #8409/Paris/2010)、「Distance」(artspace spica/東京/2011)。グループ展に「a_sight_project 01」(studio-ono/神奈川/2006)、RA武蔵野美術大学助手研究発表(東京/2006-2009)。

【BankART Lifellのチケット(新・港村パスポート)料金】

一般 300円 / 大学生 250円 / 高校生 200円 ※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

【お問い合わせ】BankART1929 新港ピア事務所

TEL 045-228-8212 FAX 045-664-3353 mirai@bankart1929.com 「新・港村」公式サイト <http://shinminatomura.com>

【アクセス】新港ピア

横浜市中区新港2-5 横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口「赤れんが倉庫口」徒歩約10分